



大雨と猛暑の8月が過ぎ、今月は白露(7日)、重陽の節句(9日)、二百二十日(10日)、秋分の日(23日)と、暦の上では秋らしい日が続きます。コロナ禍の下で何かと気持ちが重くなりがちですが、これらの暦から季節の変化を鋭く捉えた先人の感性を改めて感じると、少し心が和むようです。

伝統文化を自身の作品に

先月、旧東方村中村家住宅では三つの取り組みが行われました。「昔の暮らしを感じる講座」と「ひがしかた寺子屋」「大人の寺子屋」です。前者は『自分の絵巻物を作ろう』(小学4~6年生の5人)、後者は小学生対象(9人)と成人対象(4人)の『勾玉づくり』です。ウィルス感染防止と熱中症対策をとって行われました。

『自分の絵巻物を作ろう』では、絵巻物の構造や表現されていること、その技法を参加者で確認してから制作にとりかかりました。初めはやりにくそうな人もいたようですが、次第に慣れてこつをつかみ、全員が完成させて持ち帰りました。参加の小学生の中に東京国立博物館で本物の「鳥獣戯画」を見たという人がいました。



『勾玉づくり』では、まず展示されている埋蔵文化財を見学しました。3世紀後半の増林中妻遺跡出土の土器や6世紀の見田方遺跡出土の勾玉と土器が展示されています。参加者の中に見田方遺跡発掘の様子を見学した経験のある方がおられました。解説の学芸員はその時まで生まれていなかったため不思議な出会いと感じたようです。その方はまた、発掘当時の見田方付近の様子も話してくださいました。周囲はほとんど水田だったので、夏の夜はカエルの鳴き声がうるさかったこと、イナゴ捕りをして佃煮にして食べたことです。思いがけずかつての様子を直に聞くことができました。

勾玉の材料は遺跡出土のものと同じ滑石というものを、講師の方に用意していただきました。



↑昭和40年(1965年)頃の見田方耕地



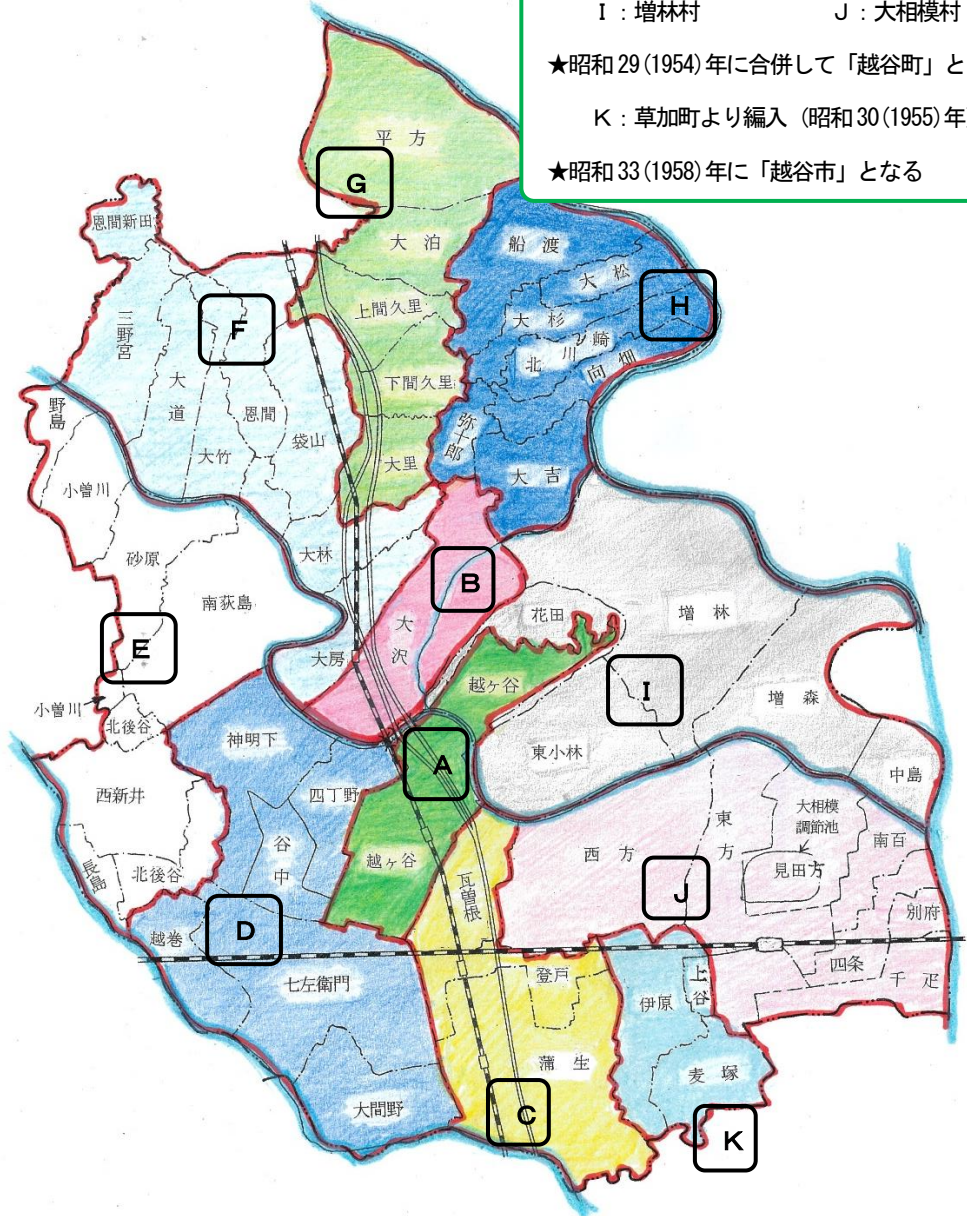
「越谷の歴史を知りたい！」

これらの講座の終了時に、参加の方々にアンケートをとらせていただきました。その中の今後希望する講座については、「親子で越谷の歴史を知れる講座を受けながら体験・物作りができるもの」という内容の回答がいくつかありました。ただ工作をするだけでなく、やはり市域の歴史をお知りになりたい方がいらっしやることに、我々もお力を頂いた感じがします。有難いことです。そこで、例えば次のような記事はいかがでしょう・・・

「越ヶ谷町」と「越谷町」 旧町村名のはなし

これまで「東方村」や「出羽村」、「越ヶ谷町」などと旧町村名で書いてきましたが、それはいつのことなのか、今のどこに当たるのかについてお話ししようと思います。

右の地図をご覧ください。江戸時代から明治22年3月までの市域は、小さな町と村に分かれていました。その名前は今では通常使われなくなったものもあります。江戸時代の領主は、大まかに市域の北西部は岩槻藩領、西部の砂原村や北後谷村は六浦藩領（現在の横浜市に本領がありました。）でした。南東部は忍藩領、そして大部分は幕府領・旗本領でした。途中の変動もありましたが、ここに示したのは概ね元禄時代（17世紀末～18世紀初め）以降の状況です。



★明治 22 (1889) 年の町村再編成による区割り

- | | |
|----------|----------|
| A : 越ヶ谷町 | B : 大沢町 |
| C : 蒲生村 | D : 出羽村 |
| E : 荻島村 | F : 大袋村 |
| G : 桜井村 | H : 新方村 |
| I : 増林村 | J : 大相模村 |

★昭和 29 (1954) 年に合併して「越谷町」となる

K : 草加町より編入 (昭和 30 (1955) 年)

★昭和 33 (1958) 年に「越谷市」となる

可憐な花です

戦前、越ヶ谷町の元荒川には綿棒の頭ほどの大きさの星草が生育していました。昭和 14 年 (1939 年) には新種として発表され、「コシガヤホシクサ」と命名されたのです。その後この植物は絶えてしまいました。

時は平成の時代となり、茨城県に残されていた種を用いて国立科学博物館 筑波実験植物園などで野生復帰が試みられています。越谷市でも環境政策課でその取り組みをしています。コシガヤホシクサは、9 月末頃まで、越谷アリタキ植物園で展示予定です。星型の花が見られるのは 9 月上旬頃までです。



綿の花



コシガヤホシクサ

また、旧東方村中村家住宅と大間野町旧中村家住宅では綿の花が咲いています。そろそろ花が落ちて実が膨らんでいきます。9 月～10 月に実が弾けて“綿”が見られます。かつては市域のいくつかの村で生産していました。・・・中村家住宅の綿を時々ご覧になっている方がおられ、ご自身も育ててその様子を報告してくださいました。